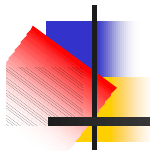
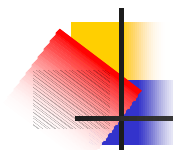


鬼怒川・川治温泉 “自分らしくなれる町” 構想実現に向けての再生計画



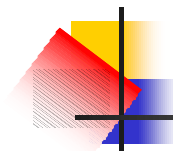


鬼怒川・川治地区の現状

バブル期における過剰投資
個人客中心の趣向変化への対応の遅れ
足利銀行の破綻一時国有化



観光事業者の多くが経営困難
藤原町の第3次産業就業者率は、89%)



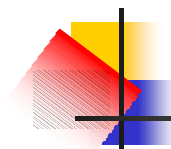
鬼怒川・川治地区の再生の意義

- 温泉観光地としての再生
+
- 過剰な資源の整理とそれによって生じる資源を
新たな観光関連産業に
転換させる



新しい観光ビジネスの
方向性を牽引





再生の方向性

目標

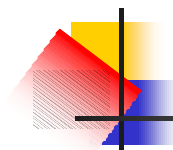
福祉観光」と「ヒーリング観光」

従来の団体宴会型からのブランド転換

加えて短期的目標として

広域連携観光」と「歴史観光」の推進





再生の基本フレーム

- 地域再生推進組織の構築
- エリアアイデンティティの構築
- 景観整備、町内導線の再設計
- 新ターゲット層の発見とプロモーション等の実現
- 顧客管理システムの導入
- 広域連携施策
- 産学連携施策
- 湯治・医療系サービスとシナジー効果を生む新産業創出

支援措置

- 1 産業再生機構、中小企業再生支援協議会、整理回収機構等の連携
- 2 地域再生支援のための「特定地域支援プロジェクトチーム」の設置
- 3 地域再生マネージャーの導入
- 4 まちづくり交付金の創設



現在の動き



- 地域再生マネージャーを中心として民間主体の地域再生推進組織を設置検討中
- 町役場内に地域再生推進室を設置
- 県においては県庁内関係 4課 16名からなる地域再生支援プロジェクトチームを設置し、重点的に支援する体制を整えた